（仮称）産業ミュージアム基本構想・基本計画（素案）に対する意見と区の考え方

◎ 募集期間：令和７年11月８日（土）から11月30日（日）まで【23日間】

◎ 件数：14件・３人（メール２人、Ｗｅｂ提出１人）

No.	項目	意見の概要	区の考え方
1	全　体	・協力してくれる区内外の企業や研究機関については、ある程度想定しているのか。もし協力してくれるところがなければ、この計画自体を練り直さないといけないと思う。	○これまで協力関係を築いてきた企業、大学、研究機関などに加え、区内外の多様な主体とも新たな協力関係を構築していき、事業運営を展開していきます。
2	全　体	・郷土資料館をはじめとした他施設との連携などを行い、区内を周遊してもらうような考えはないのか。郷土資料館などは、連携した展示やイベントなどを行えると思う。	○加賀エリアは公共施設が比較的多く設置されている地域です。産業ミュージアムは、史跡公園内と公園周辺部を連関させた事業展開を視野に入れながら、区民や来訪者の回遊性の向上を図っていきます。
3	全　体	・民間事業者などへのサウンディング調査の結果、今回の計画から大きく変わることがあるのか。サウンディング調査後には、改めてパブリックコメントを実施するのか。	○本構想・計画は、整備予定地の文化財的価値と歴史的背景を重視し、歴史的建造物の保存と次世代のための活用を両立させる基本方針を堅持するため、サウンディング調査結果やパブリックコメントの再実施によってもこの方針を変更することはありません。 　ただしソフト事業については、オープン後に社会情勢や時代の潮流に合わせて展開していきます。
4	全　体	・板橋区は、火薬製造所に端を発する工業集積や光学・精密機器産業の発展など、独自の歴史を歩んできた。これらは単なる過去の記録ではなく、「板橋ブランド」の源泉である。 　そこで、産業ミュージアムは、次のような形で板橋ブランドの創造に貢献できると考える。 ①歴史と現在をつなぐブランド・ストーリーの可視化 ②「板橋区産」「板橋区発」のブランド体験拠点 ③ブランドを共有するコミュニティの形成 ④「産業×教育」による都市ブランディング	○整備予定地で戦前・戦後・近年まで紡いできた歴史と、その歴史に紐づく板橋区産業の発展や先進的な科学技術研究などの有形・無形の創造の軌跡こそが産業ミュージアムを取り巻く資源・価値であると捉えています。 　「ものづくり板橋」を形作る原動力の１つとなった産業の側面、江戸時代にさかのぼる加賀藩下屋敷の地で紡いできた文化と歴史の側面、日本の先進的な科学技術の研究者を育成・輩出してきた教育の側面において、着目すべき歴史的背景を的確に捉えつつ、板橋の産業ブランドの向上に資する事業を展開していきます。

№.	項目	意見の概要	区の考え方
5	全　体	・産業ミュージアムが「産業振興」と「次世代教育」を実現するためには、現場に近い支援機関の継続的な関与が不可欠である。以下５点のとおり、次の役割を担える主体が必要ではないか。①産業ストーリーデザインへの参画②ミュージアム内「経営相談・ミニセミナー」の常設化③産業振興施策との橋渡し役④来館者・プログラムの評価と改善提案⑤コーディネーター機能の明確化と運営体制への位置付け	○産業ミュージアムでは、一方的な情報伝達に留まらず、来訪者とのコミュニケーションを図るため、コミュニケーター機能を担うスタッフの配置を検討していく方向です。来訪者の目線に立った分かりやすい解説をしながら、展示やプログラム体験の感想を記録し、それらを施設運営の改善に役立てていきます。また、そのほかの産業ミュージアムに必要な機能につきましても、管理運営を担う主体のあり方とともに、令和８年度に整理していきます。
6	全　体	・良い点として、基本計画の６つのテーマと運営方針では、一般科学・社会の学習や知育体験などにも触れられており、多様な主体との連携による事業運営が記載され、技術的／経済・社会／人的資源／行政管理という全政策の連携が図られている。すなわち、この計画では企業や大学、区民など、全ての政策に関わる主体が連携して、技術、政策、経済・社会活動（文化・行政活動含む）、人間、製品、自然・社会環境（過去の活動結果も含む）の全てに渡り、過去を知り、未来を考え、現在の活動を高めるものとなっており、画期的な試みといえる。	○多種多様な研究が行われてきたこの地では、ひととひとがつながり、意見やアイデアが交わされることで、数々の価値が創造されてきた歴史があります。産業ミュージアムにおいても、その文化を引き継ぎながら、この場所を通じて、企業、大学や研究機関などの様々な主体がつながり、共創することで、新たな価値が生み出されるよう、オープンまでに整備を進めていきます。
7	全　体	・良い点として、単なる施設展示だけでなく、科学研究・技術開発の実践による産業・地域振興に加えて、そうした実体験をさらなる人材育成や人々の協働につなげるという、総合的な政策の意義は大きいものといえる。	○板橋区産業振興構想2035では、新たなひとや技術などとの出会いを通じて多くのイノベーションが創出される「ひととひとがつながることで産業が成長するまち」といったブランドを確立していく方向性が示されています。産業ミュージアムは、この方向性にも合致する場所となるよう、世代や立場を超えた新たな交流を生み出し、多様な主体との連携を図りながら、次世代の産業を担う人材や理系人材を育む拠点としていきます。

No.	項目	意見の概要	区の考え方
8	全　体	・これまで板橋区では、「ひと・まち・みらい」とその実現方針のように合理的な体系に基づいて、個人・地域・環境・行政に関わる政策を進めてきており、23区内でも最も総合的・先進的で、分かりやすい政策の体系といえる。施設の事業や情報発信における総合的な哲学や文明論の活用によって、区の合理的な政策体系もPRできたら素晴らしいのではないか。	○産業振興の15施策などを盛り込んだ板橋区産業振興構想2035では、「新たな発見に出会える、ブランド創造都市」といった将来像を実現していくことが示されています。産業ミュージアムがこうした将来像の実現に寄与する施設となるよう、区の産業振興施策に貢献するための効果的な事務事業を検討していきます。
9	第３章 基本計画 （２ ソフト事業計画）	・ワークショップなどのイベントを実施すれば人が集まることが期待できるが、イベントを実施しなくても持続的に人が訪れるようにするための仕掛けが少ない気がする。	○公園内に立地する特性を生かしながら、にぎわいを生む場となるような空間をつくることで、何度も訪れたくなる場所となるように整備していきます。また、産業ミュージアムの整備予定地の歴史は、未だ分かっていない点が数多くあります。オープン後についても、この地の研究の歴史を継続して調査しながら、訪れるたびに新たな発見が与えられる可変的な展示事業を展開していきます。
10	第３章 基本計画 （２ ソフト事業計画）	・中学生や高校生が、社会科や総合学習、探究学習の一環として産業ミュージアムを訪れ、「歴史→現在→ 2035年の板橋の姿」という流れで学ぶことができれば、自分と地域の産業との関係を考えるきっかけになるのではないか。板橋の産業の歩みは、単なる工場史ではなく、交通の発達、公害問題と環境対策、グローバル化やデフレへの対応など、社会の変化そのものを映す教材である。 　また、こうした教材をミュージアムで活用することは、インターンシップ生や若い社会人に対し、仕事と進路の方向付けにつなげられ、ベテラン社会人には、リスキリングやノウハウ承継の場にすることができる。そこで、産業ミュージアムに期待される役割は、以下のとおりと考える。	○区の工業が大きく発展した経緯を辿ると、明治政府が設立した板橋火薬製造所を核とした関連工場（軍工廠）の集積と、関東大震災後の帝都復興計画による大規模工場の移転・進出という２つの面を見ることができます。こうした基盤の上に形成された、光学・精密機器産業の技術が戦後の復興を支え、「光学の板橋」としての名声を確立した歴史がある一方で、その過程には環境問題への対応や経済構造の転換期といった社会変化が大きく関わっていた点にも焦点を当てながら、区の産業史を学ぶ場を提供していきます。 また、ソフト事業では、企業や大学・研究機関と連携しながら、理系人材を育成するセミナーのほか、新技術や新製品の実証実験なども行っていく方向です。実証実験やモニタ

No.	項目	意見の概要	区の考え方
		①記憶を未来につなぐ「産業のタイムライン拠点」 ②産業振興・イノベーションのハブ ③中学生・高校生の「キャリア教育」・「探究学習」の拠点 ④インターンシップ、社会人・経営者向けの連続講座	リングを進めていくにあたっては、インターンシップ生にも参加していただきながら、キャリア形成につなげられる場をつくっていけるよう検討してきます。
11	第３章 基本計画 （２　ソフト事業計画）	・展示ゾーン構成は、過去・現在・未来の三層構造とすることを提案する。また、優れた技術を持っていても、自社の強みを一般向けや異業種向けに分かりやすく伝えることが苦手な中小企業も少なくない。展示企業や展示技術の選定にあたっては、「どの企業・製品をどのような切り口で見せるか」を一緒に設計した方がいい。 　さらに、企業へのヒアリングを通じて、技術が解決している課題、想定される活用シーン、将来の応用可能性などを整理し、来館者にとって理解しやすい紹介文やストーリーとして提示することで、展示が単なるカタログ紹介ではなく、ビジネスチャンスや学びにつながる内容になると考える。	○本構想・計画を踏まえながら、令和８年度では、産業ミュージアムとして整備する建造物内（爆薬理学試験室、物理試験室）の展示デザイン、動線、ゾーニング、施設サインなどを検討していき、その後の設計につなげていきます。 　また、展示事業についても、多様な主体との連携を図っていくことに加え、来訪者とスタッフが双方向的なコミュニケーションを取りながら、日々の展示事業を展開していきます。
12	第３章 基本計画 （２　ソフト事業計画）	・産業振興機能の強化を図るため、以下３点の機能を提案する。なお、ショールームの企画や展示内容の見直しにあたっては、専門家が定期的に参画し、来館者の反応や市場動向を踏まえた展示更新の提案を行うことで、展示の鮮度とビジネスへの波及効果を高められるのではないか。 ①区内企業ショールーム機能 ②ビジネスマッチング・実証実験機能 ③事業者コミュニティ形成機能	○産業ミュージアムでは、一方的な情報伝達に留まらず、来訪者とのコミュニケーションを図るため、コミュニケーター機能を担うスタッフの配置を検討していく方向です。来訪者の目線に立った分かりやすい解説をしながら、展示やプログラム体験の感想を記録し、それらを施設運営の改善に役立てていきます。 　また、企業などとの連携による展示事業、企業や研究者の実証実験、区内事業者同士などの交流を創出するワークショップなどを実施していくことについても検討していきます。

No.	項目	意見の概要	区の考え方
13	第３章 基本計画 （２　ソフト事業計画）	・産業ミュージアムは、「産業×教育」を実践する場として、STEAM教育とキャリア教育の両方を担うことができると考える。区内企業の「本物の技術」や「経営者・職人の生き様」に触れることができる場であることを生かし、次世代の職業観と起業家精神を育む拠点とすることが重要である。	○項番２のソフト事業計画のとおり、産業ミュージアムでは、この地が日本の工業や区産業の発展に影響を与えた歴史を持つことを伝えつつ、企業の魅力やものづくりの面白さを発信し、区の産業ブランドの向上とものづくり人材の育成を図っていきます。また、整備予定地は、日本の先進的な科学技術研究が展開された日本物理学界の中心地であった歴史があるため、理系人材の育成プログラムや起業家精神（アントレプレナーシップ）教育などのプログラムを展開していくことで、次世代の理系人材の育成につなげていきます。
14	第３章 基本計画 （３　施設計画）	・収益確保にあたっては、グッズの販売といった物販機能には触れられているが、他に方法があれば記載してほしいし、どういった収支の予定をしているかも現在の計画では分からない。施設運営のためにランニングコストがかかると考えると、収益確保の仕組みが少ないのではないか。また、今後イベントにかかる予算が確保できなくなってくると、この施設には人が集まらなくなってしまうのではないかと危惧する。	○令和７年度から令和８年度かけて、史跡公園全体の運営にかかる民間事業者などへのサウンディング調査を実施します。その結果を踏まえ、今後、産業ミュージアムの管理運営手法とともに、入場料の取扱い、飲食機能、収支計画などを検討していく予定です。なお、これらの検討にあたっては、産業ミュージアムだけで行わずに、史跡公園の整備予定地である３エリア全体（「現・加賀公園エリア」「旧・火薬製造所エリア」「旧・理化学研究所エリア」）で一体的に進めていきます。